

関係者様

京都府立与謝の海支援学校  
校長 今井俊行

## 第 10 回姿勢保持学習会の御案内

初夏の候 ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本校の教育に御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本校では「平成 25 年度特別支援教育体制整備の推進」地域開放講座により、下記のとおり姿勢保持学習会を計画いたしました。同じ地域の皆様と共通の理解や学習を深めるために 9 年前から「姿勢保持学習会」を実施しています。

今回は一日目に本校運動機能指導部の実践レポート、二日目に長年理学療法士として、重症児とその家族の生活を支援してこられた花井丈夫氏をお迎えして、講演ならびに実技指導等を行いたいと考えています。

貴重な機会でもありますので、日常的に障害のある人と関わる方、一緒に考えていこうと思われる方、多数御参加いただきますよう御案内申し上げます。

### 記

- 1 日時 平成 25 年 7 月 27 日 (土) 13:30 から 16:30 まで  
平成 25 年 7 月 28 日 (日) 10:00 から 15:00 まで
- 2 対象 学校関係者、福祉関係者及び医療従事者、障害のある人と関わる方々  
学習会の内容に関心のある方々
- 3 場所 京都府立与謝の海支援学校 視聴覚室、運動機能指導室
- 4 内容  
7 月 27 日 (土) (定員 100 名)  
報告「与謝の海支援学校運動機能指導部実践レポート」  
報告者 篠原勇(与謝の海支援学校運動機能指導部)  
7 月 28 日 (日) (定員 100 名)  
講演「感じていますか、子どもたちからのメッセージ  
～ライフサイクルを見据えて、共に生きる支援のヒント～」(午前)  
講演「重症心身障害児の生活を支援する  
～呼吸の支援とポジショニングを中心に～」(午後)  
講師 花井丈夫氏(横浜療育医療センター理学療法士)  
※午後からは適宜実技が入ります。動きやすい服装でご参加ください。

7 月 27 日、28 日 与謝の海支援学校職員による自主製作機器展示

## 5 日程

7月27日(土)

13:00 受付開始

13:30 報告「与謝の海支援学校運動機能指導部の実践レポート」

16:30 終了

12:30～13:15 機器展示(運動機能指導室)

本校の職員が工夫・手作りした姿勢保持具、移動補助具、遊具などを展示します。  
興味のある方はどうぞ御覧ください。

7月28日(日)

9:00～9:50 受付開始・機器展示

10:00 講演 「感じていますか、子どもたちからのメッセージ  
～ライフサイクルを見据えて、共に生きる支援のヒント～」

12:00 昼食 (機器展示見学できます)

13:00 講演 「重症心身障害児の生活を支援する  
～呼吸の支援とポジショニングを中心に～」

15:00 終了

9:00～9:50 機器展示(運動機能指導室)

本校の職員が工夫・手作りした姿勢保持具、移動補助具、遊具などを展示します。  
興味のある方はどうぞ御覧ください。

## 6 その他 参加費は両日とも無料です。

### 第二会場について

今回の学習会には保育はありませんが、お子様同伴の参加も大歓迎です。  
お子様と会場に入らせていただいても結構ですが、一緒に会場に入りにくい状況のある方に、  
第二会場を準備し、会場の様子を生中継いたしますので、お気軽にご参加ください。

## 7 参加申し込み

別紙申し込み用紙にて、郵便、ファックスまたはEメールで7月5日(金)までにお申し込みください。なお、両日ともに定員になり次第締め切らせていただきます。  
早目にお申し込みください。(定員に達していない場合は7月5日以降も受け付けます。)

Eメールでのお申し込みの際は「参加申し込み用紙」の内容を送信してください。

申し込み及び問い合わせ先

〒629-2261

京都府与謝郡与謝野町字男山945 京都府立与謝の海支援学校

第10回姿勢保持学習会 運動機能指導担当 篠原 勇

TEL 0772-46-2770 Fax 0772-46-2771

E-mail [shino136@kyoto-be.ne.jp](mailto:shino136@kyoto-be.ne.jp)



## 講師紹介

### 花井丈夫(はないたけお)氏 (横浜療育医療センター理学療法士)

横浜療育医療センターリハビリテーション課担当部長。重症心身障害理学療法研究会代表などを務める。重症心身障害を対象にした姿勢や呼吸の関連性について、医療関係者、特別支援学校関係者などを対象に、全国各地の研修会で講師をしている。主な著書は『重症心身障害通園マニュアル第2版』(共著) 他

「理学療法は子どもたちが生きていく力を身につけるための支援でなければなりません。彼らに必要な発達とは定型的(正常)をモデルにした機能を獲得するという考え方ではなく、『生きる力を身につける』という彼らなりの発達を支援・保障することです。そのために、彼らとの共感という信頼を知り、共感的な方法を用いて、それに必要な身体への支援が必要です。

(講演予定内容より)